

成人式などでの 不穏当発言について問う

(自民クラブ)

問

市内2会場で行われた新成人を祝う成人式において、市長は主催者として式辞を述べたが、新成人へのお祝いの言葉もそこに、自らの非を何ら認めることなく、議会を批判し、自己弁明を長々と繰り返した。この行動に新成人からも非難の声が上がったと聞き及んでいる。

更に、小・中学生が千人以上参加する、ちびっこ駅伝大会の開会式においても不信任決議の話をしたようである。

新成人の晴れの舞台をだいなしにし、政治のことなど全く関係のない子どもたちを巻き込んだ市長に11万4千人の首長としての資質が備わっているのか疑問である。新成人や幼い子どもたちに対し、どのように謝罪し、責任を取るつもりなのか。

答

新成人の皆様は、新しい市長として市政の状況を報告させていただいたつもりであるが、自身の発言により、成人式などで不愉快な気持ちにな



成人式

ったかたがいることを認識し、その後の住民説明会などにおいてお断りをさせていただいた。たいへん申し訳なく思っている。今後市民の意見を真摯に受け止めて、市民との対話を大切にしていけることが重要であると考えている。

市の食育の現状と 今後の方向性は？

(新政クラブ)

問

少子・高齢化が加速する中、今後、医療費の負担増が懸念されているが、食育の推進により、市民一人一人が食を通じた健康づくりに取り組む

ことで、健康な日々を送り、その結果、医療費削減ができるのではないかと考える。そこで、平成22年3月に西条市食育推進計画が策定されてから3年経過するが、本市の「食」を取り巻く現状と課題、今後の計画推進の方向性について問う。

答

西条市食育推進計画策定後、保健センターや学校、保育所、幼稚園など市域全体で積極的な取組を推進している。更に、庁内の関係部署においても取組を進めており、食育への関心はかなり高まったと感じているが、まだ実践にはじゅうぶらん結びついていないのが現状である。このため、食育の実践に向け、自立した食生活への知識と能力を子どもたちに身に着けさせること、生活習慣病予防のための食事について、正しい知識の普及や運動習慣の浸透を図ることに重点を置いた取組が必要であると考える。

今後の計画の推進については、運動習慣とともに食生活改善などの健康づくりに取り組むことで食生活を見直し、メタボリックシンドロームの予防を図り、将来的な医療費削減にもつなげ

ていきたいと考えている。今後とも食に関わる関係機関が連携し、多くの市民が食育を実践していけるよう、これまでの取組をより強力に推進していきたい。

学校給食における 地産地消の取組は？

(新政クラブ)

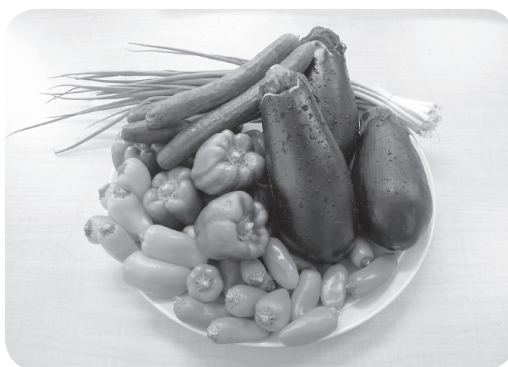
問

学校給食に地元農産物の食材を使うことで、子どもたちが興味を持って給食を食べるようになり、ひいては本市の農業を守ることができると考えるが、学校給食における地産地消の取組について、現状と今後の課題を問う。

答

学校給食における地産地消の取組状況については、現在、給食用食材は校区内を中心とした小売店に直接発注しており、地元農産物の使用に努めている。献立については、地元食材の活用や郷土料理を取り入れるなど、多様な献立作りを行っている、食への関心づくりに努めているところである。

今後、安定して計画的に地元農産品を取り入れていくためには、食材の品目や必要数量、ま



地元農産物の活用を

た同等品の確保や、保護者の負担とならない価格設定、配送方法などの問題、直売所などを使用する場合には、従来給食用食材を納品して来た地元商店の理解を得ることなどの課題があり、このような課題を解決するためには、行政内部の関係部署及びJAなどの生産者団体との連携が不可欠である。そのため、来年度には、学校PTA関係者、栄養職員、給食調理員、行政職員などで組織する西条市学校給食会において、地元農産物の活用について協議を進めていく予定であり、これからも地元農産物を積極的に使用していきたいと考えている。